

平成26年度

帯広川伏古地区子どもの水辺協議会 活動報告書

1. 事業の目的

都市部を除くあらゆる地域において少子高齢化や労働人口流出による居住者の減少は、独居や単一世代だけの世帯を増加させて、世代間での共助や相互扶助の精神、あるいはその実践を著しく低減化した。これに伴い地域全体としての不安や暗さが広がっている。経済状況の好転や雇用創出による人口の増加を待つばかりではなく、地域に暮らす者にとっての安心を確保するためには住民相互の信頼感や一体感を醸成することが喫緊の課題である。この解決にあたっては、これから社会を担う子供達ばかりではなく、周囲で起居する大人達も、経済的な価値だけではなく、掛け替えの無い自然の豊かさを体感することなどで郷土意識を育み、多様な価値観を共有あるいは認め合うことが重要である。そこで広がりをもったご近所付き合いの復活と世代間の交流、共助を推進することを目指して、帯広川の水辺を学校教育を含む生涯学習や地域住民の交流の場として活用する。特に、自然豊かな帯広川を継続的に維持・管理するには公的な取り組みばかりではなく、個々人の日常的な行動が大きく影響することを理解して自助、共助の精神や行動を活発化させる。

2. 事業の計画

勉強会は広く市民に公開するが、体験学習等の水辺での支援活動では、子供の世話をする大人の人数や用具数の制約から1回最大35名程度で実施する。主な実施場所は、勉強会等では公共の施設である西十号会館で、体験学習では河川敷公園（ちびっ子広場）付近の帯広川で実施する。実施にあたっては、NPO、民間企業、子どもの水辺北海道地域拠点センター等の協力を得、さらに北海道十勝総合振興局帯広建設管理部事業室治水課、帯広市の都市建設部管理課、市民活動部市民活動推進課および教育委員会にはご指導を頂くとともに必要に応じて報告を行う。

勉強会および体験学習等は下記の通り計画した。

2.1 勉強会

- ① 易しく学ぶ水の検査（3世代；親子孫の世代を表す）
- ② 河川管理の仕組み ―私たちが出来ることとは―（親子世代）
- ③ 水棲生物を知る（3世代）
- ④ 水道水ができるまで（3世代）
- ⑤ 水資源の危機とは（親子世代）
- ⑥ 帯広川のクレソンは食べられるの？

小学2年生以下では、川に親しむことと同時に川に潜む危険を理解、体感できるよう支援を行い、これ以上の高学年では、水棲生物の観察や川の水質との関係などの教育支援を行うと共に自らが暮らす地域の自然の豊かさを認識できるように努めた。また、教員等の大人に対しても帯広川の水質の特性や生息する生物、特にウチダザリガニやブラウントラウト等の外来生物、漁業権が設定されているヤマメ等については知見を教示した。

帯広川での水辺体験学習支援

- | | | | |
|------------|----------|------------|----------|
| ① 開西小学校5年生 | 7月14日(土) | 子供42、大人27名 | 写真4、 |
| ② 帯広幼稚園年長組 | 7月15日(火) | 子供67、大人30名 | 写真5、新聞03 |
| ③ 帯広幼稚園年長組 | 7月17日(木) | 子供29、大人21名 | 新聞5、6 |
| ④ 開西小学校1年生 | 7月22日(火) | 子供42、大人21名 | 写真6 |
| ⑤ つばさ保育園 | 7月24日(木) | 子供22、大人23名 | 写真1,7 |
| ⑥ トムテのいえ | 8月2日(土) | 子供25、大人45名 | 写真8 |
| ⑦ 開西小学校3年生 | 8月25日(月) | 子供42、大人23名 | 写真9 |
| ⑧ 開西小学校2年生 | 8月28日(木) | 子供36、大人24名 | 新聞7、8 |
| ⑨ 開西小学校4年生 | 8月29日(金) | 子供50、大人26名 | 写真10 |

他河川での水辺体験学習支援

①音更川：環境学習会；アクアソーシャルフェス

概要：7月12日(土)10時から音更川水辺の楽校で開催。子供約150、大人約70名が参加した。帯広大谷短期大学主催、トヨタ・北海道新聞・弊会後援で、水棲生物調査、河川敷清掃およびやまべ放流を行った。弊協議会からライフジャケット等の水棲生物の調査用具を貸出するとともに7名が参加し川での生物調査の学習支援を行った。また、学習会終了後に行った懇談会では、他組織；大谷短大の学生・教員、トヨタ自動車販売店、北海道新聞関係の方々と環境教育について意義深い意見交換ができた。



②札内川：川で遊び隊（少年団主催、弊会後援）

概要：8月9日(土)に中札内村札内川河川敷で子供18、大人19名が参加。中札内村スポーツ少年団が主催した水辺体験学習の会で、帯水協から3名が講師として参加した。札内川の本流から分岐した岸沿いの支流で実施。水棲生物（昆虫、魚類）の捕獲・同定および水質との関係について学んだ。「川流れ」体験は水量が多いために中止した。



③札内川：北海道帯広工業高等学校1年生

概要：9月2日(火)に帯広市札内川河岸で高校生40名、大人13名が参加。高校主催、弊会・札内川懇談会協力で河川土木等を学ぶ生徒が札内川の生物調査を行う際に支援を行った。札内川は、流速が早く清浄度が高いために生物の生息数は低い。当日は、水



量が多かったためか水棲昆虫、魚類ともに採取量は少なかったが、ドジョウ、カジカ、カゲロウ等は確認できた。

その他

- ・開西小学校におけるサケ稚魚の飼育支援（4月1日から合計8回、延27名）

さけ・ます増殖事業協会から供与されたサケの稚魚を開西小学校で飼育、展示した。サケの飼育水槽の水を帯広川の水と週2回交換した。その結果、サケの稚魚は、ほとんどが生育し、5月6日に帯広川に放流した。（新聞02）

- ・地域の学校教育支援を行う緑園中学校区支援地域本部の委員等に事務局から3名が就任した（継続）。

3.2 勉強会等

①体験学習「植樹とサケの稚魚放流会」 （写真1、新聞2）

5月6日（火）10時から（於；河川敷公園、帯広川、子供15、大人26名参加）

概要：水棲生物にとって山や川岸の植物等が物質循環の中で重要な役割を有することを説明し、ベリー等の苗木を植樹した。その後、「帯広サケの会」などが孵化、育成したサケの稚魚約1,000匹を譲り受け、さらに開西小学校において飼育した約100匹、合計約1,100匹のサケ稚魚を帯広川に放流した。

②体験学習「クリーンウォークとかけ in 札内川」

5月10日（土）10時から（於；札内川、大人5名参加）

概要：札内川クリーンウォーク実行委員会主催。河川愛護の啓発と実践を目的として企業、団体等が実行委を組織し毎年開催。全体で約800名、帯水協からは5名が参加した。ラジオ体操を行った後に、班に分かれて川沿いの約2Km歩きながら、空缶やプラスチックゴミを集めた。電化製品や家具などの大型の不法投棄されたゴミも出来る限り片付けた。（十勝毎日新聞 2014年5月10日）



十勝毎日新聞
2014年(平成26年)6月13日(金曜日)
■音更 園児がヤマメ放流

町内の建設業村上土建開発工業（村上誠社長）とドゥテック（澤田信幸社長）の主催で、町内の保育園・幼稚園の園児によるヤマメの放流が行われた。

地域貢献活動の一環で10年以上にわたって行われ、今回は音更川の柳町河川敷で5月30日に実施。音更大谷幼稚園と、宝来、柳町の両保育園から年長園児約110人が参加し、1人4匹のヤマメを川へ放流した＝写真。大谷幼稚園の佐々木

彩色（いろは）ちゃん（5）は「魚は小さくてかわいい。楽しかった」と笑顔を見せていた。



③体験学習「やまべ放流祭」(写真2、新聞3)

5月30日（金）10時30分から（於；音更川水辺の楽校）

概要：音更町の村上土建(株)・(株)ドゥテックが主催。10数年にわたり音更町在住の園児に対して放流体験を実施。今回は、大人約20名、園児約110名が参加した。帯水協からは3名が参加し、放流の支援を行った。

④体験学習「帯広川灯籠流し」(写真18)

7月26日（土）19時から（於；帯広川排出口親水広場、子供2、大人6名）

概要：新興町内子供会、同老人クラブ「新寿会」との共催。恒例の「子供夏祭り」において、帯広川排出口付近で灯籠流しを行う計画であったが降雨のために中止した。しかし、他の町内会から参加した家族が是非とも見たいとの事で準備した灯籠を流した。「お盆」等の伝統行事と川との係わりについて話し合う良い機会となった。

④体験学習「体感帯広川ー川流れー（ボディラフティング）」（写真8）

8月2日（土）10時から（於；帯広川、子供3名、大人8名、但し町内会関係者数）

概要：地元子ども会の子供3名に川流れ体験の支援を行った。「トムテの家」の子供達と共に川での危険や帯広川の水棲生物について説明した後、昆虫等の捕獲・同定および水質との関係について学んだ。その後、希望者に対して安全装備を身に着けて浅瀬での川流れを体験させた。

⑤環境交流会「帯水協の取り組み」

9月20日（土）10時から（於；とまちプラザ、）

概要：帯広市主催。帯水協の活動、特に学校教育支援と帯広川排出口の整備について展示、説明した。一般および展示参加者から質問や意見を頂き、帯水協を広報するとともに他組織との連携を深めることができた。

⑥講演会「夢の食品」

9月24日（水）13時から（於；森の里コミセン、大人41名参加）

概要：帯広市老人クラブ連合会主催。食と健康・生涯学習・地域活動等との関係について説明した。さらに帯水協の教育支援活動は、支援する者の肉体的および精神的な健康維持にも貢献することを提示した。町内会等で地域活動へ積極的に参加されている高齢者の参加が多く、活発な議論ができた。

⑦サケ人工孵化体験会（写真11～13、新聞9）

開西小学校・弊協議会主催、一般社団法人十勝釧路管内さけ・ます増殖事業協会（増殖協）の後援で、2014年10月5日（日）午前10時から開西小学校で行われた。子供、開西小5-6年生の希望者15名、帯水協関係3名、計18名と大人17名（教員2名を含む）が参加した。元さけ・ますセンター帯広所長の石垣章さんがサケの受精の仕組みなどを解説した後、子供達にサケの魚体に触れさせた。次いで、メスから卵子をボールに取り出して精子を振りかけ、子供達全員で静かに手で混ぜてから帯広川の水を少し入れて受精が完了。卵を触っても生臭くないことに参加者全員が驚いていた。直ぐに受精卵の一部を開西小学校の水槽に入れ、残りは帯広川で育てるために移送された。サケの内臓について説明が始まると、魚体の表面を恐る恐る触っていた子供たちが積極的に心臓や肝臓あるいは腎臓について触れながら質問をしていた。親サケの身は、参加者全員でチャンチャン焼をして、感謝しながら戴いた。参加した5年生の西尾つむぎちゃんは、「サケのエラを触ったのは初めてなので少し気持ち悪かったけど、呼吸のために大切で、傷つき易いことを知って驚いた」と話していた。開西小学校の無江教頭は、「小学校単独で、このような体験会を行うのは困難だが、増殖協などの協力によって可能となった。生物の学習でインパクトのある良い体験ができた」、山川校長は「今回の体験会のように地域社会が子供の教育に関わって頂くことの意義は深い。多様な専門性を持つ方々が小学校教育の中でも活躍して頂きたい」と語った。地域教育や生涯学習の重要性が叫ばれてから久しいが、今回のような活動は異なった世代間の人達が互いに顔を認識し合うことで、朝夕の挨拶がスムーズで活発となるような明るい地域づくりに繋がる良い契機と考えられた。

⑧特別講演会「十勝川のサケ」（新聞10）

11月29日（金）18時から（於；西十号会館、大人31名参加）

概要：11月28日（金）18時から西十号会館で開催、会員ら38名が参加した。帯広市立開西小学

校の山川修校長が10月5日（日）に同校で行った「サケの人工孵化体験会」の様子や意義、さらに、その後、受精卵が順調に成長していることを報告し、「児童ばかりではなく教員も興味深く観察している」と述べた。次いで、元さけ・ますセンター帯広事業所長の石垣章氏が、サケの生物学的な分類や繁殖、さらに十勝川での人工増殖の歴史について易しく解説した。サケが母川回帰することは良く知られているが、「生まれた日を目指して戻ってくる」との説明に会場からは驚きの声があがっていた。最後に、アークコーポレーション（株）和田哲也統括部長が、帯広川を含むいくつかの河川堤防をサイクリングロードとして活用することの利点を述べ、さらに帯水協が自主的に川の環境整備を行っていることは、今後、行政と市民の協同による持続的な川の管理の良いモデルとなると述べた。講演会終了後の懇談会では、講師を囲み活発な意見交換が行われ、教育関係者からは「地域の支援によって、子供達に地域の歴史や自然、さらに地域の人々の素晴らしさを伝えることは、何よりも教育に役立つので、川での体験学習やサケ人工孵化、飼育などを継続して欲しい」との要望があった。

今回のサケの事業では一般社団法人十勝釧路管内さけ・ます増殖事業協会の支援を得て実施できた。ここに感謝の意を表する。このように地域の多様な組織や専門性を持つ方々が連携することで十勝の地域教育や生涯学習の活動が盛んになることを望んでいる。

3.3 河川活動

河川活動は、学校教育支援等を実施する場所、すなわち帯広市西21条南2丁目付近の帯広川右岸約1.5kmを中心として行った。なお、他組織が主催する行事等においては十勝管内の十勝川や札内川の本流および支流で清掃活動を実施した。

① 水質・生物調査

- ・ 5月から継続して定点（帯広川分流堰付近）における「濁り」と「臭い」を官能的に評価し、あわせて川の水面の写真撮影も行った。なお、水質に問題があると判断された際には、簡易水質検査（バックテスト）を行った。その結果、6月下旬から10月まで、一過性で水質の悪化が認められ、河川管理者に通知するとともに関係機関（北海道、帯広市）へ帯広川の水質改善に関する要望を行った。
- ・ 6月から10月上旬まで生物の生息調査を行ない、魚類では、ドジョウ、ウグイ、イトヨ、ヤマメ、虹鱒、ブラウントラウトの生息が確認された。ウチダザリガニは約80匹を、ブラウントラウトは約8匹を駆除した。（写真15）

② 河川清掃（写真16）

- ・ 帯広市河川一斉清掃に呼応して実施した。
- ・ 札内川清掃に参加した。
- ・ 帯水協役員による定期的なゴミ拾いは、週1回を原則とし、5月から10月までの間に計25回実施した。

③ 河川環境整備（写真20,21）

- ・ 河川敷公園（ちびっこ広場、西21条南2丁目）北側に位置する帯広川排出口周辺の親水広場の整備を行った。5月31日から合計7回、延34名が参画した。
- ・ 帯広川堤防天端における歩行者の危険防止のために、倒木や棘を有する雑木処理を5回、延17名で実施した。

- ・ 「エコな地域づくりの会」と連携して河川敷公園（ちびっこ広場、西 21 条南 2 丁目）付近の環境整備から排出される狩草、枯葉等の堆肥化実証実験に参画した。

3.4 会議等

- ①役員会：会長、副会長、事務局長および事務局次長等による役員会を原則月 1 回開催し帯水協の運営や帯広川での課題等について検討した。今年度は、これまでに 19 回実施した。
- ②事業および会計監査：4 月 17 日（木）午後 6 時から西十号会館で開催し、平成 25 年度の事業および会計について監査を実施した。さらに今年度の事業および会計計画案について検討した。
- ③総会・運営委員会（新聞 1）：4 月 25 日（金）午後 6 時 30 分から西十号会館で開催し、平成 25 年度の事業・会計報告、今年度の事業・会計、役員案等を審議した。その結果、全てが提案どおりに承認された。また、今年度の学校教育支援について幼稚園および小学校からの要望について検討し実施案を作製した。なお、7 月 6 日（日）には、学校教育支援の日程と参加者数について検討した。
- ④懇談会：協議会運営委員相互および協力を頂いている組織・団体の方々との情報交換および親睦を図るために、これまでに 4 回実施した。
 - ・ 4 月 25 日、総会終了後に開催。今後の事業や財務について意見交換を行った。
 - ・ 7 月 15 日、体験学習の実施後に開催。帯広川水辺の環境保全あるいは地域の市民活動等について意見交換を行った。
 - ・ 9 月 13 日、今年度の学校教育支援が終了したので、NPO 等の参加者とともにより教育支援での問題点について意見交換を行うために開催した。
 - ・ 11 月 28 日、特別講演会後に開催。NPO、講師および一般の方を含めて帯広川の活用や地域の活性化等について意見交換を行った。

3.5 その他

- ・ 6 月 4 日（月）：全国水環境マップ実行委員会主管の水質検査を実施した。
- ・ ウチダザリガニを採捕するための「かごによる採捕許可証」を北海道知事から受領（継続）。
- ・ 十勝総合振興局主管の「とかちエコマエストロ」就任（継続；1 名）。
- ・ 北海道開発局が主管する札内川懇談会の委員に就任し、会議等に参加した（継続）。
- ・ 「かわまちづくり」に関する勉強会を 2 回実施した（継続）。
- ・ 「エコな地域づくりの会」（会長 駒込幸男、環境教育インストラクター）との連携を深化させた。その結果、次年度に帯広川河畔および河川敷公園から排出する雑草、雑木および枯葉等を堆肥化処理することとした。
- ・ 帯広 NP028 サポートセンター主催「小さな川カフェ」に参加。（2 名、写真 19）
- ・ 帯水協が所有する備品等の一覧表を作製して関係機関や地域の方々へ周知した。なお、現状復帰を原則として貸し出しを行うことで備品等の有効活用を図った（継続）。ライフベスト；子供用 3 回、同大人用 2 回、子供用ヘルメット 1 回、折畳テーブル 2 回、テント 2 回を貸し出した。

4. 総括

今年度も帯広川の水辺を、学校教育を含む生涯学習や地域住民の交流の場として活用することによって、地域の自然の豊かさを認識し、さらに世代間の交流やご近所付き合いの活発化などにより共助を推進することを目指して活動を行った。自然豊かな帯広川を継続的に維持・管理するには公的な取り組みばかりではなく個人の日常行動が大きく影響することを理解して自助や共助の精神および行動を活性化させることとした。

帯水協は設立5年目となり、日常の活動は比較的安定して実施できるようになってきた。しかし、事業遂行に当たっては、特に川での活動や支援において安全確保が最重要であり、事故がないよう努めた。また、多くの役員が居住する町内会と一小学校の校区の方々を主な対象として活動しているために、事業やその遂行が慣習化することを戒めている。(新聞4)

ホームページの活用や地元新聞社の協力による広報活動を積極的に行ったことから、今年度は音更川や札内川でのイベントに招待されるなど、地域；十勝において弊協議会の認知度が向上したと思われる。帯水協の活動は、十勝の自然が豊かであることを十勝の住民が改めて認識することや、さらに水辺の生涯学習を契機とした世代間交流や地域コミュニティの活性化に貢献したと自負している。

平成24年度から実施している帯広川排出口周辺の親水広場の環境整備を引き続き行った。十数年間放置され荒れ放題の水辺を、自助、共助によって安全で快い広場として、さらに維持、整備した。すなわち、散策路、接近路の小草整備、花の移植、釣り場の整備・安全確保を弊協議会が自主的、主体的に企画・実施した。また、環境整備にあつたては、地域住民が憩い集う公園などの公共施設等を住民自ら整備・活用することで、地域社会の活性化や世代間交流の促進を図ることを目的とした「エコな地域づくりの会」との連携を深めて、河川敷公園(西21条南2丁目)付近から排出された刈り草や枯葉等の堆肥化実証実験に参画した。帯広川およびその周辺の環境保全活動は計画通り実施した。

勉強会では、⑥帯広川のクレスンに関して学習と試食を予定していたが、クレスンが繁茂しなかつたことで中止した。ここ数年、帯広川でクレスンが、ほとんど見られなくなった。その原因は不明であるが、帯広川で採取した生き物を食べることは、食全般や生物学に関わる知識が向上することにつながり、さらに地域の豊かな自然を体感して郷土愛が育まれるばかりではなく、食に関わる先人の知恵を学ぶ好機として捉えている。今年度は、例年、試食体験を行っている帯広川のウチダザリガニ(駆除のために捕獲)に加えて、帯広川排出口付近で自生する野セリを採取して安全性を確認後に子供を含む希望者で賞味した。その結果、子供を含めて賞味した参加者は、駆除すべきウチダザリガニも野セリも味わい豊かであることを体験した。また、この地域に生息している駆除対象の生物、ウチダザリガニ、ブラウントラウト、虹鱒およびミンクは、全て食用等で移入したものであることを説明すると、子供ばかりではなく大人も驚嘆していた。このように身近な自然体験は、環境、エネルギー、経済などの現代社会が抱える諸問題を、食べるという本能的な行為から考える良い契機となるものと思われた。

今夏(7~9月)、帯広市立開西小学校では、1~5年生までの児童、計212名、教員、延20名が帯広川を訪れて水辺の体験学習を行った。児童は、帯広川で非日常的な体験を行い、川の危険性(深場がある、浅くとも流れが速い、水温が低い等)や生き物の多様性(ザリガニ、ドジョウ、ウグイ等の捕獲)について学んだと思われる。また、自分が暮らす地域の自然が豊かであるが内在する危険も体感したものと思われる。教員からは、体験学習の授業全体を取り仕切り指導すること、きめ細かい子供への配慮、少人数での体験教育・安全確保の取り組み等に関して帯水協へ

の謝意を示す多くの意見が聞かれた。

児童の躰を含む教育は、家庭と学校の連携が必須である。しかし、過度な利便性や経済性の追求を背景とした核家族化の進展は、家庭内における世代間の役割分担や連携を稀有なものとしている。このような状況下、地域全体で子供を見守り教育することが重要と思われる。

これまでに弊協議会では、市民が帯広川流域全体を持続的に利活用するために、帯広市の内閣府認定「環境モデル都市」計画の中に位置付けられる「かわまちづくり」協議会（仮称）が必要と考え、その設立準備のための「かわまちづくり」勉強会を行ってきた。市民主導により帯広市を東西に横断する帯広川の流域全体を一体的に考えるための組織を民産学官連携で立ち上げることを意図したが、一昨年、帯広市が理解を示さないことから発展的に解散した。しかし、帯水協を含む民間組織等との間では、帯水協の試案である、以下①から④までの目標を共有して活動を行なっている。①市の中心部から集積した住宅地である西部地区を繋ぐ遊歩道あるいはサイクリングロードとして帯広川堤防天端等を車道と完全に分離した形で活用する、これは②大火災や震災時の避難路および水害時の土嚢の設置あるいは貯蔵場所としても活用し得る。③日常の草刈、清掃などの点検・維持活動は、河畔の町内会等の地域主体で行い、あわせて水質の異常や危険箇所などを河川管理者へ通報することとし、さらに④河畔林は「帯広の森」計画の回廊部分として位置づけて市民の憩いの場として活用を図るものとする。これらを具体化するために今年是非公式の勉強会を2回行い、次年度は行政への働きかけを改めて行うこととした。また、種々の会合など機会あるごとに、この考え方について議論を深めた。また、町内会を含む民間団体との連携強化や個々の組織における財務体質の強化、さらに若い人材の発掘が急務であると考えられた。

今年度の新事業の一つは「サケの人工孵化および飼育」である。本事業は、一昨年から構想していたもので帯水協の主催で行ったが、一般社団法人十勝釧路管内さけ・ます増殖事業協会の後援が得られて実現できた。ここに増殖事業協会に対して深甚なる謝意を表す。地域教育や生涯学習の重要性が叫ばれて久しいが、今回の事業は多様な専門性を有する方々や組織が連携して行った教育効果の非常に高い事業であった。十勝で暮らす方々がサケの生態や食材としての特性について意外に知識が少なく、子供と共に大人が真剣に学んでいる姿が印象的であった。今回のように全ての参加者が共通の感動を同時に体験することは、世代間や参加者間の隔たりを超えて、互いの顔を認識し合い挨拶がスムーズで活発となるような信頼感に溢れた明るい雰囲気醸成して安心・安全な地域づくりに繋がるものと考えられた。

表3.1 平成26年度 実施事業

20140401~20141220

月	日	曜日	事業等	参加者	場所等
4	5	土	帯広川視察・清掃	4	帯広川
	7	月	帯広川視察・サケ稚魚飼育管理	3	帯広川、開西小学校
	8	火	役員会	3	事務局
	10	木	帯広川視察・サケ稚魚飼育管理	2	帯広川、開西小学校
	14	月	帯広川視察・サケ稚魚飼育管理	2	帯広川、開西小学校
	17	木	拡大役員会、監査、サケ稚魚飼育管理	11	西十号会館、開西小学校
	21	月	帯広川視察・サケ稚魚飼育管理	2	開西小学校
	24	木	帯広川視察・サケ稚魚飼育管理	2	開西小学校
25	金	総会（定期運営委員会）、懇談会	32	西十号会館	
28	月	帯広川視察・サケ稚魚飼育管理	3	開西小学校	
5	1	木	帯広川視察・サケ稚魚飼育管理	2	開西小学校
	3	土	役員会	4	事務局
	6	火	植樹とサケの稚魚放流会	41	帯広川
	10	土	クリーンウォーク札内川	5	札内川
	11	日	全市一斉河川清掃	6	帯広川
	16	金	役員会	5	西十号会館
	14	火	役員会、帯広川視察・調査	4	帯広川
	21	水	役員会	3	事務局
	27	火	音更川体験学習実行委員会	2	大谷短期大学
	30	金	やまべ放流祭	2	音更川柳町水辺の楽校
6	1	日	帯広川排出口整備（雑木伐採、草刈）	8	帯広川
	7	土	役員会	3	事務局
	9	月	札内川懇談会	3	帯広開発建設部
	13	金	帯広川排出口植栽	2	帯広川
	16	月	体験学習支援準備	4	事務局
	19	木	つばさ保育所 水辺体験学習（降雨中止）	11	帯広川
	27	金	役員会	3	事務局
	1	火	役員会	3	事務局
7	3	木	河川管理者打ち合わせ	5	振興局
	4	金	帯広川視察・管理者打ち合わせ	6	帯広川
	6	日	運営委員会	15	帯広川
	10	木	役員会、帯広川視察・調査	8	事務局、帯広川
	12	土	アクアソーシャルフェス	220	音更川
	14	月	体験学習支援 開西小5年	66	帯広川
	15	火	体験学習支援 帯広幼稚園	97	帯広川
	15	火	懇談会	11	帯広川
	17	木	体験学習支援 帯広幼稚園	50	帯広川
	17	木	札内川懇談会現地調査	2	札内川（中札内）
	19	土	役員会	3	事務局
	22	火	体験学習支援 開西小1年	63	帯広川
	24	木	体験学習支援 つばさ保育園	45	帯広川
	26	土	体験学習支援（灯籠流し）子供会	11	帯広川
8	2	土	体験学習支援：トムテ保育所、子供会	70	帯広川
	5	火	役員会	3	事務局
	9	土	体験学習「川であそび隊」	37	札内川
	14	木	排出口整備	4	帯広川排出口
	18	日	帯広川視察・清掃	4	帯広川
	24	日	役員会	6	西十号会館
	25	月	体験学習支援 開西小3年	65	帯広川
	28	木	体験学習支援 開西小2年	60	帯広川
	29	金	体験学習支援 開西小4年	76	帯広川
	1	月	帯広川学習会 開西小5年	7	事務局
9	2	火	体験学習支援 帯広工業高校1年	53	札内川
	4	木	役員会	5	事務局
	13	土	懇談会	21	帯広川・事務局
	20	土	帯広市環境交流会	4	十勝プラザ
	21	日	役員会	5	西十号会館
	22	月	さけ・ます増殖事業協会訪問	3	帯広事務所
	24	水	高齢者学級講演「夢の食品」	41	森の里コミセン
	26	金	消費生活展	2	十勝プラザ
	27	土	川フェス参加	5	札内川
	29	月	帯広川排出口視察	4	帯広川
	10	4	土	帯広川整備（サケ受精卵受入れ準備）	3
5		日	サケ人工孵化体験会	35	開西小学校・帯広川
9		木	役員会	5	事務局
16		木	帯広川排出口環境整備	7	帯広川
17		金	開西小サケ受精卵視察	3	開西小
24	金	帯広川視察・清掃	5	帯広川	
11	3	月	役員会	4	事務局
	9	日	拡大役員会	14	西十号会館
	9	日	帯広市市民協働の町づくりプレゼン	2	とかちプラザ
	12	水	帯広川河川敷公園環境整備	9	河川敷公園
	13	木	帯広川サケ受精卵視察・清掃	4	帯広川
	23	日	帯広川視察・清掃	9	帯広川
	28	金	講演会「十勝川のサケ」、懇談会	38	西十号会館
12	2	火	役員会	7	西十号会館
	10	水	帯広川、サケ受精卵の視察	4	帯広川
	12	金	十勝多自然ネットとの打合せ	4	市役所
	16	火	帯広川視察・清掃	2	帯広川

写真1 植樹とサケ稚魚放流 5/6 植樹の様子とサケ稚魚の放流



写真2 やまめ放流祭 5/30 開会式と放流の様子。於：音更川水辺の楽校



写真3 つばさ保育所 6/19 直前の降雨で中止。片付けの様子



写真4 開西小5年 7/14 川での生物採取の様子とバックテストで水質検査



写真5 帯広幼稚園 7/15 全体の様子と生物採取



写真6 開西小 7/22 生物採取と川流れの様子



写真7 つばさ保育所 7/24 全体の様子と個々のグループの様子



写真8 トムテの家の水辺体験会・川流れ体験会(同時開催) 8/2 全体の様子



写真9 開西小3年 8/25 全体像とグループ学習の様子



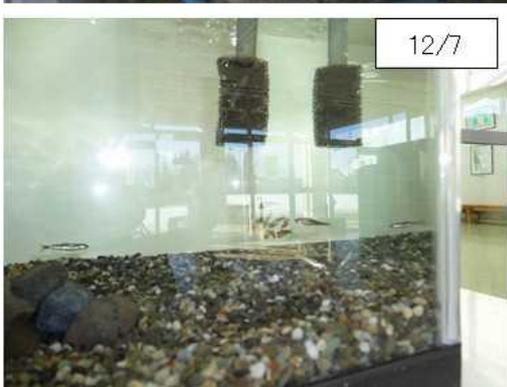
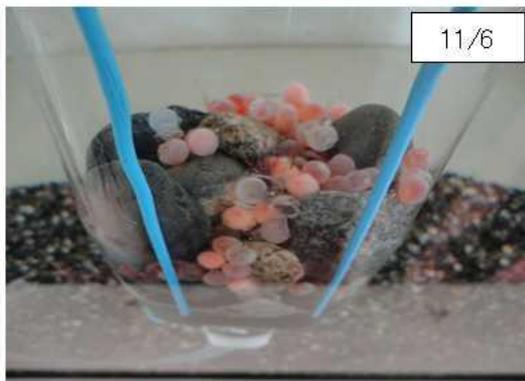
写真10 開西小4年 8/29 上：全体像、増水で深場の体験 下：川流れの様子



写真11 サケの人工孵化体験会 10/5 サケから採卵の様子。於:開西小学校



写真12 開西小水槽のサケ受精卵の発育



12/10
観察の様子
山川校長と
石垣氏(右)

写真13 サケ受精卵の飼育の様子;帯広川排出口付近(201410～)



サケ受精卵の発眼(帯広川, 20141210)

写真14 特別講演会「十勝のサケ」 11/28 講師:山川 修校長、石垣 章氏



写真15 帯広川で捕獲された魚類(2014)



写真16 帯広川取水口付近のゴミ(201408)



写真18 灯籠流し 7/26



写真19 札内川で野点 9/27



写真20 帯広川排出口付近の3月末の様子



写真21 帯広川排出口付近の環境整備の様子 7月



写真22 エコな地域づくりの会との連携会議と枯葉狩り草堆肥化用箱の作製と運用



**サケ稚魚放流
事業など決定**
帯広川伏古地区
子どもの水辺協
会

帯広川伏古地区子どもの水辺協議会(関川三男会長、運営委員37人)の定期総会が、帯広市内の西十号会館(西21南2)で開かれた。今年度の事業計画として、サケ稚魚の放流や子供たちの教育支援における川流れ体験会の実施などを決めた。

同協議会は西帯広地区の帯広川保護に取り組んでおり、今年度5年目を迎える。総会は4月25日に開かれ、約25人が出席した。関川会長が「前年度事業の参加者が延べ1000人を超えた。活動が活発になる中、改めて事故のないよう気を引き締めよう」とあいさつした。

帯広市市民提案協働のまちづくり支援事業に推薦された「エコな地域づくりの会」と連携し、河川の枯れ草、枯れ葉などを堆肥化する取り組みについても協議した。

任期満了に伴う役員改選では関川会長を再任。副会長には同協議会創立時から務めた澤田元さんに代わり、神田祐田さんが新たに就いた。(小縣大輝)

サケの稚魚放流などの事業計画を決めた総会



音更川にヤマメの稚魚を放す子供たち

音更川
ヤマメ元気に育つて
3千匹放流、生物観察も

【音更】帯広大谷短大地域連携推進センターの環境学習会が1日、音更川河川敷の音更町柳町地区水辺の養護が行われた。参加した子供たちは、音更川の水生物を観察したり、ヤマメの稚魚約3千匹を放流した。(中沢弘一)

帯大谷短大が環境学習会

帯広市や音更町などの小・中・高生約150人が参加。全道環境学習会の一環として、北海道新聞社の環境保護団体の活動を支援する「YAMAME」プロジェクトが後援している。参加者は3グループに分かれ、ドジョウやトケウオ、フナ、アケボノエビ、サケ、ヤマメなど音更川に生息する生物を観察し、「シャル・フェス」の一環を観察、河川敷の清掃を行った。道内では「クリーンH」だった。また、体長5センチ

のヤマメを放流。音更鈴蘭小6年の東海林歩果さん(11)は「『元気』でいってらっしゃい」という気持ちを込めて、川に放しました。同短大地域連携推進センター長の津久井寛教授は「地域に残る素晴らしい環境や、人と自然のかかわりを子供たちが学んでもらえれば」と話していた。



○：「元気」稚魚を川に放った。に返ってきて。○：今年で5年目。市内の西11南11 児童と、とから帯広サ興町内会(竹ケの会の提供を受けて川正倉)と帯広川伏 帯広第八中学校の自然古地区子どもの水辺協議会(関川三男会長)が6日、同市西21南2 付近にまで育てた稚魚を留意し写真。

○：3、4歳の子供たちは手持ちの器に稚魚をすくい上げ、「元気」をすくい上げ、川に放した。初めて参加した同小5年の河井仁君(10)も「大きくなって戻ってきてほしい」と心待ち。帯広川では近年、サケの遡上(そじょう)の目撃情報が増えているため、思いが伝わるかも!?

新聞6 十勝毎日新聞 7月23日



夏は水遊び

暑いけど水は冷たくて気持ちいいよ (帯広・帯広川水辺の体験学習)

2014.7.23 撮影

新聞7 十勝毎日新聞 9月17日



ザリガニ捕れたよ

ほら捕れたよ！ザリガニを捕獲して喜ぶ帯広開西小学校の児童たち 帯広・帯広川の水辺の体験学習

勝毎-9.17

2014年(平成26年)8月28日(木曜日)

○…帯広開西小学校(山川修校長、児童254人)の2年生36人が28日、帯広市西22南2の帯広川で体験学習に取り組んだ=写真。
 ○…近隣町内会会員で組織する帯広川伏古地区子ども水辺協議会(関川三男会長)



とNPO十勝多自然ネット(西江靖幸理事長)の協力で開き、今年で5年目。毎年、1-5年の児童が交代で体験し、その年によって川の異なる表情を見続けている。
 ○…川の水は、少し冷たく流れも速かったが、2年生は元気いっぱい。ライフジャ

ケットを着て靴のまま入り、魚や虫を網ですくった。川流れ体験では、体全体で水を感じ、青空に吸い込まれそうな感覚を楽しんだ。植松稿百(こお)君は「空に『白い物体。が浮かんでいたらよ。冷たかったけど気持ちいい』。白い物体って雲のこと?!

十 勝 毎 日 新 聞

2014年(平成26年)10月16日(木曜日)

サケの受精仕組み学ぶ

帯水協 開西小で人工ふ化体験会



解体したサケの体に触れる児童

帯広川伏古地区子どもの水辺協議会(帯水協、関川三男会長)によるサケの人工ふ化体験会が5日、帯広開西小学校で行われた。参加した児童はサケの特徴や受精の仕組みを学び、理解を深めた。
 帯水協は5年前から帯広川にサケ稚魚の放流を行っている。今回の体験は児童に生き物の一生を知つてもらうことと、地域交流を目的に初めて行った。同校児童ら35人、6年生と帯水協の会員ら35人が参加。初めに元水産総合研究センター・さけ・ますセンター帯広事業所長の石垣章さんが受精の仕組みを解説。児童は実際にサケの心臓や肝臓に触れながら説明を受け、積極的に質問をした。続いて石垣さんがボール

に移した雌のサケの卵に精子を振りかけ、帯広川の水を加えた後、児童が手で混ぜると受精が完了。受精した卵は同校の水槽に移され、児童が温度や水質管理をしながら12月ごろのふ化を待つ。
 参加した西尾つむぎさんと振り返った。(高津佑也)

十 勝 毎 日 新 聞 2014年(平成26年)12月6日(土曜日)

サケの人工ふ化体験報告

水辺協 開西小の山川校長



サケの人工ふ化体験について語る山川校長

帯広川伏古地区子どもの水辺協議会(関川三男会長)の特別講演会が11月28日、帯広市内の西十号会館で開催された。帯広開西小の山川修校長、元さけ・ますセンター帯広事業所長の石垣章さんを講師に招き、参加者38人がサケの人工ふ化や歴史について学んだ。
 山川校長は10月5日に同校で行った「サケの人工ふ化体験会」の様子や意義を説明。受精卵が順調に成長していることを報告した。さらに「児童だけではなく、教員も興味深く観察している」と述べた。
 石垣さんは、サケの生物学的な分類や繁殖、十勝川での人工増殖の歴史について解説した。
 「サケが母川(ほせん)へ帰ることはよく知られているが、生まれた日を指して戻ってくる」との説明に会場からは驚きの声が上がっていた。
 関川会長は「地域の多様な組織や専門性を持つ人たちが連携することで、十勝の地域教育や生涯学習が盛んになればうれしい。地域の人たちが、小学校を核とした明るい地域づくりにつなげていければ」と話していた。(川野遠介)

開西小学校 地域との連携を深める ～帯広川の体験活動～

開西小学校では、帯広川伏古地区子どもの水辺協議会・十勝多自然ネットの協力を得て、帯広川での体験学習を継続して行っています。

帯広川の水中観察、水質調査、清掃活動を行い、身近な川に親しみ、楽しみながら自然の素晴らしさを感じることができます。

子どもたちは何度も川に入り、ヤツメウナギやウチダザリガニなどを捕ったり、川の流れを体感したりと、日頃できない体験に目を輝かせていました。

他にもサケの採卵体験や受精体験会を開催し、一部の受精卵を学校で育てています。今後、稚魚の飼育や放流などを予定しています。

体験を生かして、川のマップを作ったり、水と暮らしの関係や環境問題について考えたりするきっかけになっています。



水中生物 発見！！

帯広川伏古地区子どもの水辺協議会 備品等一覧 20141220

備品等	数
ウエダー(胴長靴)	13
ハイウエダー	7
ライフベスト 大人用	15
ライフベスト 子供用	30
同上用 キャリーバック	3
ヘルメット(子供用)	30
バスタオル	10
救急セット	1
ブルーシート	2
アルミテーブル	5
ポップアップテント	2
ポータブル水洗トイレ	1
デジタルカメラ	1
PCマウス	1
ハンド拡声器	1
透視度計	2
ストップウォッチ	3
棒状温度計(金属ケース付)	5
実体顕微鏡	1
覗きメガネ	10
虫メガネ	28
バケツ(ペール缶)	10
縞見ルーペ	2
バケツ	10
バット(白)	9
ポリ手付ビーカー	5
網(大、小)	25
ピンセット先曲	40
パケット用専用カップ	20
セイナスコンテナ	9

備品等	数
水槽	3
同上用ポンプ等	1式
ポリタンク(20L,10L)	4
ヘルメット(工事用)	5
安全靴	5
草刈サロペット	4
エンジン刈払い機	2
同上用安全装置(かるべえ)	1
安全フェースマスク	2
ガソリン携行缶 5L	2
ガソリン携行缶 20L	2
一輪車	1
カケヤ	1
鉈(ナタ)	1
鍬(クワ)	2
鎌(カマ)	5
フォーク	3
ショベル(穴あき)	2
鉋鋸(ナタノコ)	2
剪定鋏	1
刈込鋏(ハサミ)	2
砥石	3
シャープナー	2
ヤスリ	1
ツールボックス	1
ロープ	3
標識(立入禁止)	4

書籍	数
安全管理ハンドブック	1
自然体験活動指導者ハンドブック	1
まさかの時の生き残り塾	1
アウトドアで遊ぶ学ぶ	1

ご入用の物品等がございましたら、いつでもお貸しますので、会計の澤木までお尋ね下さい。